

コロナ禍の中で、 機能を果たし続ける九州工大

九州工業大学 学長 尾家 祐二



新年おめでとうございます。

明専会および会員の皆様方には、
本学の教育研究活動への格別のご理解並びに多大なるご支援を賜り誠に厚く御礼申し上げます。

昨年は、本学のみならず世界中が新型コロナウイルス感染症への対応に追われた年となりました。3月、4月の学位記授与式、入学式等の式典の中止に始まり、キャンパス内への入構規制、オンラインによる遠隔授業の開始など、いままで経験したことのない判断・対応を迫られました。緊急事態宣言の解除後は、慎重な判断のもとキャンパス内での活動

を徐々に再開しており、第4クォーターからは感染症対策を講じた上で、対面授業の授業数を増加させています。また、部・サークルなどの課外活動も感染防止対策を講じている7割近くの団体が活動を再開しており、キャンパス内の活気も徐々に戻りつつあります。

大学として感染拡大防止策を講じることが勿論ですが、学生の教育研究等の活動を停滞させないことを特に重視し、対応を行って参りました。遠隔授業の導入においてはWGを組織し、多くの議論を経て実施に移したことで、学生アンケートの結果からも一定の満足度が得られている事を確認しており、経済的支援においても、大学独自の支援策などを実施し、例年に比べ退学者が増加するなどの状況には至っておりません。特にこの4月に入学した新入生の皆さんにおいては、キャンパスに通

う機会も少なく、友人や先輩との関係を築くことが困難な状況でしたが、「オンラインお昼休み」や「オンライン留学説明会」、「入部WEEK!」などさまざまな取り組みを事務職員企画で実施しました。

学生の就職活動についても、多くの企業が採用計画を見直すなど、不安視するニュースが報道されており、工学系全体の採用が大きな影響を受けていないこともあり、本学の今春卒業予定の学生の就職状況は例年と変わらず良好な見通しです。また、今年3月に実施予定の学内合同企業説明会の参加予定企業数も約70社と企業の来年以降の本学学生の採用動向も鈍っていないと感じています。

一方、大学としての本来の活動も停滞させることなく取り組みを続けています。教育の国際化では、このような状況のため物理的な行き来は叶いませんが、オンラインによる取り組みは活発に行っており、今年で8回目となるマレーシアプトラ大学との国際共同シンポジウムもオンラインで実施、また、海外活動拠点も

タイのバンコク、中国の揚州と2拠点を新たに設置しました。

研究活動においては、民間企業との共同研究の件数・金額は昨年比で若干減少しておりますが、国によるプロジェクトへの採択は増加しており活発な成果を上げています。また、(株)Q T n e t と共同で戸畑キャンパス内にローカル5G環境を構築、今後、多様な産学連携の創出を目指していきます。

このようにいかなる状況においても、大学の使命である教育、研究、社会貢献活動を果たし続けることに注力してきましたが、今回のコロナ禍によるこの状況はもうしばらく続くことが予想されます。今こそ、分断、孤立ではなく、寛容な気持ちで結束し、多様な考え、感性を備えた人たちが知恵を出し合うことでこの全世界的な厄災を乗り切ることができると信じています。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症の早期終息、ならびに皆様方のご健康を切にお祈りいたします。今年もよろしくお願ひ申し上げます。